

鶴川地区スケジュール変更に伴う新たな学校づくりQ&A集

管理番	項目番号	項目	質問	回答	担当課	関連リンク先
1	1	新たな学校づくり推進計画について	鶴川西地区の統合が延期されると鶴川東地区の統合スケジュールが再延長になってしまうので、再度の計画変更が無いようにするべきではないでしょうか。	2024年度に計画策定以降の様々要因による統合時期や学区変更新期の点検を行います、急なスケジュール変更にならないよう慎重に判断したいと思っています。	新たな学校づくり推進課	
2	2	計画の広報活動について	なぜ、このタイミングでの説明会の開催になったのでしょうか。	2024年2月7日に市として正式に鶴川東地区の統合スケジュールの変更を決定し、2024年2月13日に鶴川第三小の新生説明会が予定されていたため、同日に鶴川第三小の在校生と鶴川第二小の新生と在校生への説明会を開催いたしました。	新たな学校づくり推進課	
3	2	計画の広報活動について	スケジュール変更について、未就学児の保護者にはどのように周知するのでしょうか。説明会を開催するべきではないでしょうか。	未就学児への保護者には2月下旬に新たな学校づくり通信を保育園、幼稚園を通じて配布し、スケジュール変更について周知したいと考えています。	新たな学校づくり推進課	
4	2	計画の広報活動について	子どもたちにはスケジュール変更についてどう説明するのでしょうか。	子どもたちには2月下旬に新たな学校づくり通信を学校を通じて保護者に配布し、スケジュール変更について周知したいと考えています。	新たな学校づくり推進課	
5	3	計画のスケジュールについて	鶴川駅前の開発が予定されていますが、少子化や統合はそこまで緊急性があるのでしょうか。時間をかけて進めてはいいのでしょうか。	鶴川駅周辺の開発は、鶴川駅周辺の安全性、利便性の向上と、鶴川駅南口の居住環境の向上を目的としております。児童数の変動に影響する可能性はありますが、少子化と施設の老朽化、子どもたちの教育環境の整備のため、当初の計画通り進めたいと思っています。	新たな学校づくり推進課	
6	3	計画のスケジュールについて	なぜ、このタイミングでのスケジュール変更になったのでしょうか。	鶴川第二小の敷地北側の斜面が土砂災害特別警戒区域となっており、新校舎建設時にこの指定を解除するには新たに擁壁改修などの工事が必要だと2024年1月に判明しました。そのため、敷地の安全対策の実施と併せて教育環境への影響を最小限に抑えるために、鶴川東地区のスケジュールを変更しました。	新たな学校づくり推進課	
7	3	計画のスケジュールについて	鶴川東地区の児童は2029年に統合され、2033年からは鶴川第二中と真光寺中の建設の影響を受けます。結果として、小学校入学から中学校卒業まで影響を受ける児童が出てしまいますが、統合時期を見直すなど、配慮はできませんか。	適性規模・適正配置を契機とした新たな学校づくり推進計画は、小規模校が早期に適正規模となることを重視しながら、学校施設の老朽化状況も考慮し、統合時期や建て替える順番を決めています。なお、新校舎建設中は、児童の教育環境への影響を最小限に抑えるための配慮を行います。	新たな学校づくり推進課	
8	4	通学について	2024年度の新入生だけでなく、2025年度以降の新入生も学区を選べますか。	通学区区域緩和制度で、受入枠がある場合に限りませんが、小学校は指定校の隣接校、中学校は市内全域の学校を入学先として選ぶことができます。 ■通学区区域緩和制度 https://kosodate-machida.tokyo.jp/soshiki/5/3/253.html ■就学指定校変更制度 https://kosodate-machida.tokyo.jp/soshiki/5/3/256.html	学務課	 まちだ子育てサイト 通学区区域緩和制度  まちだ子育てサイト 就学指定校変更制度
9	4	通学について	入学先変更の周知を、ただ通知を送るだけでなく、どう理由で延期をし、通学先を変更することでどのような影響があるのか工夫すべきではないでしょうか。	延期をした理由、どういった影響があるかについての説明会を2024年2月13日(火)、新生及び在校生の保護者を対象に行いました。また2024年2月16日(金)には、鶴川第二小、鶴川第三小の新生の保護者全員に経緯と影響を記載した文書と2024年度の入学先の変更申請書を送付しました。今回の変更により隣接校への入学を希望する場合は2024年3月6日(水)まで申請を受け付けます。	学務課	
10	4	通学について	鶴川西地区の子どもは、鶴川東地区のように通う学校を選ぶことはできないのでしょうか。	2029年度に(仮称)鶴川中央小の学区の一部(旧鶴三小の学区の一部である鶴川1丁目、能ヶ谷1・2・7丁目、広袴町)を(仮称)鶴川東小の学区に変更します。その際学区変更対象地域のお住まいの在校生については、在籍していた(仮称)鶴川中央小を選択することもできます。(仮称)鶴川東小と(仮称)鶴川中央小両方選べるのは、学区変更がある地域のみです。	学務課	

11	4	通学について	鶴川第三小を仮校舎として使用する間、スクールバスの導入や通学の安全対策への検討は行いますか。	徒歩での通学を基本としていますが、30分程度での通学が難しい場合に公共交通機関のさらなる活用を進めています。公共交通機関を利用しては、30分程度の通学が難しい場合には、スクールバスの導入も含めた通学の負担軽減策について、新たな学校づくり基本計画検討会や新たな学校づくり推進協議会の中で検討していきます。 鶴川第二小学校の学区から鶴川第三小学校の位置に通学するための通学路については改めて検討が必要があると考えています。2029年度の統合に向けて、2026年度中にはどのような通学路を設定すべきか検討会等で意見交換を行い、道路管理者や交通管理者（警察）と連携しながら、新たな通学路における必要な安全対策について検討し、統合前年度である2028年度には新たな通学路に必要な安全対策を行ってまいります。	新たな学校づくり推進課	
12	5	教育環境について	2024年度2025年度に入学した子どもは2回お友達の入れ替わりがある、子どもたちの心のケアは何か考えていますか。	統合時における児童への配慮として、合同授業や合同遠足など統合前に児童同士が交流できるよう事前交流を実施します。 また、統合時に在籍する児童への特例措置として、学校変更により通学する学校が変わった場合、変更前後どちらの学校も選択できるようにします。	指導課 学務課	
13	5	教育環境について	学級数が増えますが教育内容はどうなりますか。	基本的な教育内容は学習指導要領に沿って進めているため変わることはありませんが、学級数が増えることで協働的な学習がしやすくなります。	指導課	
14	5	教育環境について	児童数が多くなるので、クラス替えはいらなくなりますか。	クラス替えは、人間関係の固定化によって子どもたちの成長が妨げられるのを防ぐことを目的としています。また、新しい人と関わり、関係性をつくりあげ、社会性を身につけることも目的としています。さらに、人間関係をリセットするタイミングでもあります。そのため、児童数の少ない多いに関わらずクラス替えを行っています。	指導課	
15	6	教員について	鶴川地区のように、年度を分けて統合を経験したことのある教職員はいるのでしょうか。	各自自治体において統合の時期は様々であります。様々な形の統合を経験された自治体に視察に行くなど検討したいと思っております。	新たな学校づくり推進課	
16	8	給食について	鶴川第三小を仮校舎として使用している間は、他校からの給食配送はどうなりますか。	2029年度に鶴川第三小学校を仮校舎として利用している期間は、鶴川第三小学校の既存の給食室を利用し給食を提供します。	保健給食課	
17	8	給食について	当初統合を予定していた2026年度時の給食は、鶴一小から配送されるのでしょうか。	2029年度の鶴川東地区の統合までは、鶴川第二小学校の校舎をそのままの状態で使用いたしますので、給食室も引き続き利用し給食を提供します。	保健給食課	
18	9	施設整備について	鶴川第二小を建替える必要はありますか。	町田市教育委員会では、児童数の減少と学校施設の老朽化という問題に対応しながら、未来の子どもたちにより良い教育環境をつくるために「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定しました。推進計画の「学校施設整備の基本的な考え方」「適正規模・適正配置の基本的な考え方」「新たな通学区域」の考え方に基づき、鶴川東地区においては鶴川第二小に統合新設小学校を建設する計画を進めています。	施設課 新たな学校づくり推進課	
19	9	施設整備について	鶴川第二小は崖地や斜面が多い立地ですが、どうして鶴川第二小に新校舎を建設するのでしょうか。	「町田市新たな学校づくり推進計画」の「学校施設整備の基本的な考え方」「適正規模・適正配置の基本的な考え方」「新たな通学区域」の考え方に基づき、鶴川東地区においては鶴川第二小に統合新設小学校を建設することにしました。崖地や斜面のある地形でも必要に応じて安全対策を実施しながら建設を進めてまいります。	施設課 新たな学校づくり推進課	
20	9	施設整備について	土砂災害特別警戒区域に新校舎を建設して危険はないのでしょうか。	土砂災害は、気象情報を事前に収集し、予め避難行動を取ることが可能です。 そのため大雨が続くときは、土砂災害の恐れがある場所に近づかず、安全な建物内や離れた場所に移動することで、人への被害を防ぐことができます。 鶴川第二小では、早めの避難行動が取れるように、全国瞬時警戒システム（Jアラート）の受信機を職員室に設置し、土砂災害警戒情報や大雨特別警報などの情報をいち早く得られるようにしており、安全を確保しています。	施設課	
21	9	施設整備について	鶴川第二小の既存の擁壁があるが、なぜ新しい擁壁が必要なのでしょうか	既存の擁壁は資料等が残っていないため具体的な設置時期については不明ですが、鶴川第二小開校時（1964年）には設置されていたと考えられます。 そのため設計が古く、現在の基準に擁壁の角度等が合わないため、新たに擁壁を設置する必要があります。	施設課	
22	9	施設整備について	擁壁改修工事後の新校舎建設で校庭は確保できるのでしょうか。	新校舎の位置が校庭側に寄ることで校庭は少し狭くなりますが、建物の配置や形を工夫して校庭面積への影響がなるべく出ないようにします。体育授業や運動会、校庭遊びに必要な面積は確保できると考えています。	施設課	
23	9	施設整備について	新校舎建設後、鶴川第二小の第二グラウンドは校庭として残りますか。	現在、設計のため詳細を決めていませんが、第二グラウンドを校庭として残すことだけでなく正門や花壇を設置するなど、様々な検討を行います。	施設課	
24	9	施設整備について	仮校舎は何を意味していますか。	校舎建替え等の工事期間中に、その他の校舎で学校生活を過ごすことになる校舎を「仮校舎」としております。 （仮称）鶴川東小では今回の変更で、鶴川第三小の既存校舎を仮校舎として利用することを予定しております。	施設課	
25	9	施設整備について	鶴川第二小の工事中は、鶴川第三小を仮校舎として使用することですが、プールや給食はどうなりますか。	鶴川第三小の校舎を仮校舎として使用している期間は、現在の鶴川第三小のプールで授業を行い、自校で調理した給食を提供します。	施設課	
26	9	施設整備について	鶴川第二小のスケジュール変更をきっかけに、設計に地域や子ども達のアイデアを盛り込めませんか。	保護者・地域住民・学校協力者・教職員の代表で構成する「町田市新たな学校づくり基本計画推進協議会」や、児童や学校関係者などのご意見を参考にしながら設計を進めます。	施設課 新たな学校づくり推進課	
27	9	施設整備について	鶴川第二小にあるジャンボ滑り台は残りますか。	現在、設計のため詳細を決めていませんが、ジャンボ滑り台を残すかどうか様々な検討を行います。	施設課	

28	9	施設整備について	鶴川第二小北側のピオトーブは擁壁工事の際に残せますか。ピオトーブの生態系を維持できますか。	ピオトーブの場所と新たに設置する擁壁の位置が重なるため、ピオトーブを現状の形で残すのは難しいと考えています。これまで学校や地域でピオトーブを大切にしてきた経過や児童が自然に触れる学習効果なども踏まえ、敷地内の移設なども含めて検討します。	施設課	
29	9	施設整備について	工事中の騒音・振動は大丈夫でしょうか。	工事中は仮囲いの設置や低騒音・低振動の機械を採用することなどにより騒音・振動の低減に努めます。また、現場に騒音・振動計を設置し、騒音・振動状況を確認できるようにします。	施設課	
30	9	施設整備について	工事車両が急な坂を上り排気ガスが大量に出るのではないのでしょうか。	東京都の条例に適合した車両の順守や作業時の車両のアイドリングストップなど、排気ガス対策を実施します。	施設課	
31	9	施設整備について	鶴川第三小を想定よりも長く使うこととなりますが、改修は必要ないのでしょうか。	鶴川三小は2023年4月現在で築56年、2028年で築61年、2032年で築65年です。2026年度から鶴川西地区統合新設小学校の仮校舎として使用するため、2025年度に教室転用工事や雨漏り等の補修工事を行うほか、2032年度まで仮校舎として使用することを念頭に必要な改修工事を行います。	施設課	
32	9	施設整備について	鶴川第三小の耐震性は大丈夫でしょうか。	町田市立の小中学校は、2010年度までに耐震補強が必要な学校の工事をすべて終えており、耐震化の対応は済んでいます。	施設課	
33	9	施設整備について	鶴川第三小の学級数が増えますが、教室はどうなりますか。	2026年度に（仮称）鶴川中央小として鶴川第三小と鶴川第四小が統合します。鶴川第三小の既存校舎で普通学級24学級、特別支援学級6学級の児童が生活できるように、2025年度に教室転用工事を行い、併せて学童保育クラブやまちどもの活動場所も確保します。2029年度からは（仮称）鶴川東小の仮校舎として、校舎を使用する際は、普通学級数が少ないため、教室不足の心配はありません。	施設課	
34	11	学校施設の利用について	鶴川第二小の体育館で土日にスポーツをしています。2029年度までは通常通り使用できますか。	2029年度の鶴川東地区の統合までは、鶴川第二小の校舎をそのままの状態で使用いたしますので、体育館も引き続き開放いたします。	スポーツ振興課	
35	12	防災機能について	鶴川第二小学校建設時の避難場所はどうなりますか。	鶴川第二小が担っている防災機能は、地域の方々と調整のうえ、近隣の公共施設へ機能分散を図っていきます。具体的には、鶴川第三小、大蔵小、鶴川第二中（地震時のみ）、真光寺中（地震時のみ）を想定しています。	防災課	
36	13	学童保育クラブについて	鶴川第二小の学童保育クラブの建物はそのまま残るのでしょうか。	2029年度の鶴川東地区の統合までは、鶴川第二小の学童保育クラブの建物はそのまま残るため、今まで通り学童保育クラブを利用できます。	施設課 児童青少年課	
37	13	学童保育クラブについて	鶴川第三小を仮校舎としている時の学童保育クラブはどうなるのでしょうか。	鶴川第三小内にある学童保育クラブのスペースをそのまま使い、統合により必要となる育成スペースについては校舎内の教室をタイムシェアで利用します。	施設課 児童青少年課	
38	14	放課後子ども教室「まちとも」について	鶴川第三小を仮校舎としている間の鶴川第二小の「まちとも」コミュニティは継続するのでしょうか。	鶴川第二小の「まちとも」コミュニティが継続できるよう、まちとも運営協議会と協議してまいります。	児童青少年課	
39	14	放課後子ども教室「まちとも」について	鶴川第三小の和室を転用するとですが、まちともで使っています。教室数は足りますか。	仮校舎に移動している期間も「まちとも」の活動は仮校舎を利用して続くことになると考えています。	施設課 児童青少年課	
40	15	特別支援学級・通級指導・特別支援教室（サポートルーム）について	2029年度に特別支援学級の児童も統合になりますか。	2029年度に特別支援学級の児童も統合となり、通学先が鶴川第二小から鶴川第三小の位置の仮校舎になります。特別支援学級の事前交流や事前の校舎体験等を含めて、学校と情報共有し連携を図ります。	教育センター	